京城日日新聞

渾沌たる思想界(上)

次は國家的個人主義の時代乎

ドクトル、オブ、フイロソフイー 長瀨鳳輔

▲マルクスよりラツセルへ—といふ此の語は可成現今の思想界の流れを觀取せる批評である。戰爭そのものが已に理知を缺いで居る。物質主義の最も露骨な表現であると同時に、假令その戰爭が終熄しても矢張り當分は、國民の腦裏から戰爭氣分を拂除することは不可能に屬する。即ち興奮せる感情が消失する迄には相當の年月を必要とする。

▲戰爭後の歐洲といふよりも世界の思想界は一時非常の革命的氣分を持つて居つた。直接戰後を承けた興奮せる感情の下に急進思想の生れるのは當然である。即ち茲に於て彼のマルクスの黄金時代を現出した彼方にも此方にも資本論は勞働者の聖書として持てはやされ赤色表紙の書物は雨後の筍が生へて飛んで行く時代と入つた。然し今ではどうやらその時代も颱風の如く通過して、今少し思想的根據、哲學的基礎の上に立つた健全な思想を吸收する時代になつて來た。

▲換言すれば興奮せる思想が漸次沈靜せる思想へとし感情より次第に理知の世界へとし思想は轉換しつゝある。或一部の論者は早計にも、單に思想の表面上の現れのみを觀取して、歐洲の思想界が今や唯物的より宗教的時代に入つたと甚だ樂觀的な議論を爲して居るものがある。予輩と雖も一面にはその傾向のあることは看取する。然し乍ら、今や全く突入して居るといふ樂天主義者にはどうしても與し得られない。

▲マルクス商會時代に各國に於て目覺めたる勞働者の蹶起、資本家對勞働者の爭鬪、續々として起つた方々のストライキ、怠業、賃銀要求など、それは今では表面沈靜の形に見ゆる、しかし、この爭鬪が鎭靜して、今や資本家も勞働者も相共に宗教時代に入つて來たと見るのは、根本的治療を施さず、恰も腫の膿が脈中に潜在せるには氣附かずして、外皮の腫の退くを見て、樂天せるものと異らない。何ぞ知らん、病毒は全身に充溢して鼻を冒し、眼を冒し、全身を冒すに及んでは、投藥も何等の功を奏さない。

▲思想の流れは恰度、水の流れるやうなものである。或時は地上を流れて河となり、滔々として舟を泛べ、又或時は地下を流れて暗流となり微數を貫く。只表面の現はれのみを見て暗流を看取することの出來ぬのは、未だ眞に見たりと云ふことは出來ぬ。水に流れある如く思想にも脈絡がある。人はその現れを見て唯物と云ひ、唯心と云ふ。或は科學的といひ宗教的といふ。現今の思想の流れが科學時代(唯物時代)より宗教時代(唯心時代)に入つて居らぬ。一方には極端なる急進思想があり一方には反對なる、樂天思想があるとすれば、その中に在つて我等は、個人として、又國家の一員として、人類の一部分を構成する上に、如何なる思想の上に立脚すべき乎。國家的忠君愛國主義不可、社會主義不可なりとすれば、予輩の提唱する國家個人主義の檢討に入らなければならぬ。

比律賓紀行 小林淺吉

(七)

(一)馬尼剌市

イ 馬尼剌市鳥瞰

マニラ市街は、パイ湖からマニラ灣に注ぐ、パシツグ川の南岸に濫觴し、三百餘年前は、川沿ひに屹す材を積んだ障壁が設けられ其上に大砲が据せられて、後方の市街が擁護されてゐた。家は所謂ニツパ家屋で、木や竹の柱にニツパ椰子を編み込んだ家根、壁も竹でニツパ椰子を編んだもので出來てゐた。西班牙人は初め南方のセブー島を攻取り、次にパナイに移り、六年目にマニラに攻入つて難なく之を略奪した。其總大將は有名なるレガスピで、マニラを攻落したのは、其孫のサルセドと云ふ當時二十一歲の青年と、ゴイチと云ふ老武者とであつた、丁度西曆千五百七十一年で、爾來西班牙は太守を此地に置き、比律賓の首府としたのであるが、其貿易は墨西哥のアカプルコに限り、年々兩地の間を往復する一隻の商船で、貨物を輸出入して居たので、昔時盛大に赴きつゝあつた商業は、一時に衰頽することゝなつた。其後千七百八十九年(百三十年以前)宇內の大勢に伴れて、西班牙の施政方針も變り、千八百三十七年(今より八十年以前)マニラを外國貿易に開放することゝなり、支那との貿易が非常に發展を極むるやうになつた。但し、當時のマニラは、狹隘不潔な市街、不便な船舶の碇泊地として知られてゐたのみで、日本領事館の如きも、一旦置いて引揚げたやうな狀態であつたが、米人領有後頓に面目を一新するに至つたのである。

現在のマニラ市も、矢張り此歷史の圖形の上に存在する。即ちパシツグの南岸には、昔時の障壁に代つた西班牙の古城がある。其城の郭內圍市街であつて、重なる官衙、寺院學校等が存在し商店、住宅等も多數存在してゐる。之は米人領有前のマニラを語るもので、住宅商店等何れも西班牙式の木造二階家である。商業區域は此城と川を隔つる北岸にあつて、サンタクロス、エスコルタ、ロサリオ街等を中心に、其附近を商業區してゐる。マニラの人口は約三十萬人、市內の廣さは横濱、神戶に比すべく全市を若干の行政區に別つてゐる。新マニラは島人が誇稱して、東洋の眞珠市と云ふが如く、比律賓に此町あるかと思ふ程立派な町である。水道の設備は元より、電燈、電車、街路等も完全に整つてゐる。其のバグンバヤンの遊歩地、タフトアベニユーの大通、ルネタ公園、マニラホテル前の大廣場等は純然たる米國式を發揮し、特に下水の設備は衛生の方面に努力した丈けあつて、河溝の不潔なるに似ず、立派に行届き、木造洋式家屋には必ず水浴室と洗滌式便所の設備があり、思ひ切つた遣方で、衛生の設備は遺憾なく整つてゐる。交通機關は前記電車の市の內外を縱橫に網を張つてゐる外、自働車四千臺、カルテラカロマタ(共に馬車にして上等をカルテラと云ひ、下等の爲に郊外に使用するものをカロマタと云ふ)が約四千臺あつて其賃金も物價の高價なるに似ず、低廉である。

馬尼剌市の人口三十萬人を分類すれば、最も多いのかタガログ人(土人)で其數約二十五萬、支那人が約四萬(一說に十萬人とも云ふ)米國人西班牙人が約一萬で、日本人は約三千、此外英國人印度人等がある。

先づパンを與へよ 紅蹄

道德だの、義理だの、博愛だの、仁俠だの、報恩だの、忠君愛國だの、平和だの、一視同人だの、國際聯盟だの、其他愛と云ひ情と云ひ美德と云ふ總ゆるものが一體なんだ。元來之等一切のものは他の爲にのみ犧牲を拂へと強ひてゐる。吾々はそれに滿足する程無能ではない。吾々の最も愛し最も尊重すべきものは何と云つても吾々自身でなくてはならぬ。その愛する尊重すべき吾々自身は苦し迫るパンの問題に眞實の本體をだに發揮し得ないではないか。道德だの義理だの博愛だの仁俠だの報恩だの忠孝だの總ゆるものを痛ゆる前に、先づ吾人に對して生命を保證すべきパンを與へよ。然らずして平和を叫び人間愛を叫ぶは贅だ。砂上に築く樓閣は假令外形に於て美なりとも倒頽は免れない。

文人顧客

雅號の起因(二) 竹の島人

誤り見られて蜀山人

太田南畝の名も他人知らぬではなかつたが、其蜀山人といふ方が一層名高かつた。蜀山號は初め四方赤良と號し、落款には四方山人と署したが其劍號に鑄るもの蜀山人と見ゆるに、人多くは誤つて然う讀んだ。それで誰いふとなく蜀山人といふやうになつたから、彼に自ら蜀山と號むるに至つた。老後に逸助といふがあつた。蜀山之れを愛したが、後貧を轉へて商人の蜂蜜を受くる機あつて、逸助又とした。けれども無慾恬淡な蜀山は業務で迂鈍なる者であつた。從つて貧乏を告ぐると、蜀山に貧を乞ふ事一再に止まらなかつた。或時逸助蜀山を訪ふた。蜀山早くも其來意を察して喚ひながら、「逸助又困るから助けてくれか」

「いや今日は然うおやありませぬ。商賣の下手な私だからといふて、然う無面皮しく無心ばかり言はれたものではございませぬ」と逸助は頻にないことをいふ。蜀山は微笑ひ乍ら

「それは近頃珍らしいことぢやの、では何のやうな用事があつて來たのぢや」

「外でもございませぬが、私宅の壁が落ちて、見ともないので、實は反古紙を御買ひ申し、それで壁を貼らうと思ひまして、態々參つたのでございます」

「然らか、それは何より容易いこと、然らば之れを進はさう」

蜀山は折しも机上にあつた、自分の書を多く與へた。彼れ恬淡にして無頓着な蜀山は、自己の書幅で壁を貼られる事抔は、更に意に介しはしなかつた。逸助は謝して歸つた。門人は逸助の手にある書幅を見ると、逸かさず聞ふた。逸助はありのまゝに答へた。門人驚いて書幅を取つて見ると、文晁らの畫に蜀山の題詠して平生未だ見ざる所のものゝみであつたから、走つて門內に入り、蜀山に其事を告げると、蜀山は平然として

「お前がそれを欲しければ、逸助から買ふたが可い」と、茲に於て他の門人等と共に、逸助に乞ひ、相當の代價を以て、其書幅を贖ふた。後逸助が破れ壁を貼つたのを剝がして求めたものさへあつた。

或年は千賀盆に、逸助が蜀山を訪して町で買つた。けれども賣行が惡かつた。其處で逸助蜀山を訪ふて、歲暮全部を買ふてくれと頼んだ。蜀山は輕に微笑を湛へて、

「外のものなら兎も角、紙の歲暮をそれ迄蜀山買ふても仕樣がなく」

「でも旦那が買ふて下さらなけりや、私は夜逃げでもするより外にはありませぬ。」

「困つた奴ぢや……では其歲暮を賣れるやうにして遣つたら可からう」

蜀山は直に百餘の歲暮に一々短冊を添へて遣つた。そして諸友へ吹聽を作けて歲暮を持たせ遣ると諸友爭つて之れを購ふたから、逸助は奇利を獲るに至つた。

「道中膝栗毛」の作者として、人口に膾炙する十返舍一九が、或る時蜀山を訪ふた。すると蜀山一九を待たすこと數時間、容易に面會する樣子がなかつた。短氣なる江戶ッ子の一九は、氣短かを以て自任する一九は、遂に堪らなくなり、蜀山の執事も又甚だしいと腹立して去つた。後一九偶々蜀山に逢ひ、其無禮を詰ると、蜀山いふ、

「折角貴公が來られたから、一杯快く酌けやうと思ふたが、折惡しく家中無一物であつたから、庭前の桐の木を下駄屋に賣ることにし、それで酒を買ふと、既に歸つて了はれたが、惡戲も程こそある」と、之れを聞いた一九は初めて蜀山の人と爲りを知り、爾來親交を結ぶに至つた。蜀山の著書は汗牛充棟も只ならざるが、中に著名の書としては、石楠堂隨筆、蜀山餘錄、觀光集、南畝莠言、一話一言、浙江文集、杏園間筆、敏齋習、明詩選、通詩選、杏園稗史、半日閑話、孝世茂類考等がある(文政六年四月六日歿す、享年七十五)

(西)瀨を祝して 一編輯部の庭の秋を唱ふ 骨々子

小春日の下、日照雨る地を
寂然として淡く淡く、また淡う
霧に染め薔薇紅葉に映く
太陽色の新と謎と窓に
奇しき日人は緊を握ひて
妙なる自然の秋を刻む
欅花の都、新欅のなかば
思想の響鐘うつ新聞の樓
社會の木鐸の俺が新聞社の
編輯室の窓の邊の
四十三坪の秋の歌。

(十五行以內文藝係宛)

心の海よ まり子

憂くは、おとめのこゝろ
あゝ、心の海の眞闇に
暗き影を辿りゆく
いとも深き底にお播るゝは
黑髮の長きに似し、藻草。
おゝ、眞闇なす心の海に
小迷へるたましいよ、

創作 熱光の下を (三九) 曉谷

「それぢや、誰が責任者だか解らないぢやないか。今お母さんに聽いたら、お前さへ承知をすればと言はれるし、お前は又說服よく遂げやうとする。兎に角、そんな事を言はないで歸つて呉れ。もう一度歸つて呉れ。折角、男が見苦しく頭を下げて、屈辱を忍び乍ら伴れに來たのぢやないか。ネ歸つて呉れ」

俺は、お糸の手を握つて言つた。お糸は何とも返事しないで默つてゐる。何と云ふ傲慢者だらう此の女は!何と云ふ意思の明瞭しない、不鮮明な女だらう。と思ふと、憎惡と反感とは堪まらなく頭を擡げて來たけれ共、執着は何物よりも強い。——俺はお糸の手を握り締て打ち振り乍ら、歸つて呉れ!歸つて呉れと連呼した。果ては淚まで混じつて來るのだつた。俺は又、何故斯う云ふ不純な戀の名い女に引摺られて見苦しい醜態をするのだらう。何と云ふ意氣地のないことだらう。と自分で、自分のすることが解つてゐ乍らも、矢張り俺はお糸を思ひ切れない男だつた。

俺は、これを愛と謂はずに、執着だと言つて置かう。丁度、貰ひ馴染んだ女郎の事を忘れ切れないで、通ひつめる男の執着と何の選びもないものであつた。それは決して要素的な愛の目醒めではなかつた。唯、醒め切らない肉體的な執着だと云ふより外はない。

「兎に角、男親もあるし、一應は談してからにしませう」とお阿母の態度は依然として冷淡で、お糸の態度は依然として曖昧である。

「いゝえ。このことをお父さんに話して貰ふ位なら、何も男が頭を下げておめ〱と來はしません。お糸、兎に角、モ一度俺と一緒に歸つて呉れ。歸つて呉れ」俺は自分で、自分の言葉に感動して終つて淚を流してゐることに氣附いた。俺の前に坐つてゐたお稻叔母さんは、何時の間にか貰ひ泣きをしてゐたか

「お糸さん、和さんがあんなに言はつしやるのに、あんた可愛いことはないのか。歸つてやんなされ氣の毒に。妾までが淚が出る位ぢやに。歸つてやんなされ」と言つてお糸の心を動かさうとするのであつた。お糸は矢張り默つてゐる。

「和さん、兎に角今は談しはつかぬ。親父とよく相談してからにしませう。お糸は伴れて歸らないで下され」と迄お阿母は言つた。俺ははもうこれが最後だと思つて

「斯うお願ひしても駄目ですか」と幾等か忿怒を帶びて言ふと、

「これも貴郎の爲を思ふて言ふのぢや、このまゝ歸んなすつた方がよろしいぢやありませんか」お阿母の綺麗な言は冷い。

戶外は眞ッ暗な闇だつた。俺の心は鉛のやうに重くなつて、昂奮するだけ昂奮したあとの疲れで餘計くなつて了つてゐた。水のやうに肌に觸れて來る夜氣の中を、俺の重たい足どりの度に夜露に濡れた豆殼が、ガサゴソと音を立てた。

・・・・・

糸よ。私達の離反は斯う云ふことが動機だつた。其夜は、一度歸つたお前も、何となく私のお阿母にと言ひ出した。私も其時は彼々に折合はないで、再び別れてゐたいと思ひ惱んだが、兎に角、お前の眞意と眞實とを確める——人を試みると云ふ事は邪惡だけれど——ために一時別れてゐやうと云ふ相談をして別れたのだつた。それも、此の先、何う云ふ方法を持つて、離反し合つた雙方の親の手から逃れると云ふ處までは決めてゐなかつた。頗る漠然としたものであつた。唯、私はお前に眞實がありさへすれば、何時でもお前と一緒になれる、親たちも返して呉れる事だと思つてゐたのだ——兎に角、私はお前の眞實を縋ひ乍ら惱ましい日を續けてゐる。糸よ、願はくば私の期待と熱望の期待と審意の祝福とを裏切らない女であつて呉れ。

(二〇、一〇、二〇日午前一時稿完)

本紙定價 一ヶ月前金七十錢 … 廣告料 … 發行所 京城日日新聞社 京城府永樂町一丁目七二 … 東京支局 東京市麴町區 … 大阪支局 大阪市北區堂島中一丁目 …

内外報電

英國産業危機に頻す

……鐵道從業員組合長トーマス氏は目下チエツクスロヴアツク國に旅行し不在なり（紐育來電）

街路運輸者も加入

倫敦に於ける三萬五千の街路運輸勞働者の代表者は來る廿三日を以て同盟罷業を決行する旨發表したり（倫敦來電）

電鐵從業員も罷業

倫敦來電……鐵道從業員組合長トーマス氏は全力を盡して鐵道從業員が同盟罷業の擧に出でざる樣努力する處ありたるも組合員等は同氏の勸告に耳を藉さずして同盟罷業を決行すべしと思惟さる（紐育來電）

英皇太子調停か

倫敦よりの報道に依れば今次英國の同盟罷業に加擔する者が炭坑夫のみに止まらず三角同盟に屬する勞働者全部に迄蔓延するが如き事態に立至らば英國皇太子は自ら調停の勞を執らんとする模樣なりと（紐育來電）

排日法案に反對

桑港商業會議所は加州下院に意見書を提出して排日法案一般投票に反對せん事を申請せり（桑港來電）

排日の對應計畫

加州在住邦人は排日土地法の決定以前に於て三ケ年間の借地契約及農園會社の組織に努力し以て同法の適用の脱るべく計畫中なり（紐育來電）

日米交渉圓滿進捗

米國々務省と幣原大使との間に商議中なる土地問題は圓滿に進捗中なり（華盛頓來電）

農業代表者に警告

大花郷は農業家代表者に對し述べて曰く如何なる商品或は食料品たりとも之を市場に出し惜み或は人爲的に物價の吊り上げんとする運動に加擔するは大藏省の肯ぜざる所なりと（華盛頓來電）

國際聯盟委員會

本部はブラッセルに決定

目下ミランに開會中の國際聯盟協會委員會は日本が青島の前獨逸租借地を占領したること並に山東問題に對し支那の提議を討議することを拒絶し今回の會議は斯かる問題を議するに非ずとの決議を爲し同時に日本外相は適當の時機に於て必要なる報告一切を提供するの用意ある旨聲明し山東問題討議に對する投票に就て日本委員は伊太利英國羅馬尼等の委員の大なる援助を受けたり國際聯盟本部の所在地は巴里を選定するの提案撤回せられブラッセルとゼネバとの兩地の中より決定さるゝことゝなり日本はブラッセルを投票したるが結局滿場一致を以て選定せられたり（羅馬來電）

利權回復熱沸騰

各國代表會合決議

英領印度、支那、朝鮮、印度、アフガニスタン、ベルチスタン、波斯、土耳其斯坦各代表者は露國過激派政府の發起に依りバークに會合し九月廿三日左の決議をなせり（東京來電）

一、吾々各國は各國内より一切の勢力を驅逐し利權を回收すること
二、此目的を遂行する爲過激派政府の援助を受くること但し共産主義の承諾は各國の自由とすること
三、各國代表者本部をバークに置き各國に實行委員を派遣すること
四、必要の武器彈藥は本部にて準備すること

尚露青年土耳其黨領袖にして久しく獨逸にあり親近露國過激派軍司令官に任命せられたるアルカン氏は同會議を主宰せり出席者は頗る多く支那代表者は七名に達し印度代表者として有名なるメーカツトアリー氏も出席せり

饑饉救濟借款擔保

支那政府が四國銀行團に申込める一千二百萬元の饑饉救濟借款は今回同銀行團より目下紐育にて開會中の新銀行團に宛て通告したるが擔保に就ては支那側にては近く引上げらるべき形勢に在る輸出入税の一部を以てせんと希望せり尚北京國際救濟會は五千萬元の救濟借款を起すべしと政府に提議せり（北京來電）

哈府邦人引揚完了

ハバロフスク在留邦人は軍隊の撤退と同時に全部帝國と尼港附近に引揚中の處既に引揚を終了せり（浦鹽來電）

江蘇督軍後任

總督首相擬議

齋藤總督は十九日午前八時……町の自邸を出で首相官邸に原首相を訪問し朝鮮統治に關する緊急問題に就き協議し同十時過ぎ退去せり（東京來電）

研究會委員會

赤池警務局長出席

研究會政務審査委員會第六分科會は十八日午前十一時より開會幹部牧野前田安田三子其他數十名出席赤池警務局長の朝鮮十三道に於ける不逞鮮人跳梁及び警務の近況に關する説明を聽取せり（東京來電）

驅逐艦隊動靜

驅逐艦野分蔵白雲秋風の四隻は十八日夜鎭海より永興灣に入り十九日午後四時元山へ入港せり而して本艦隊は二十三日城津に向け出航の豫定なるが碇泊中は一般人民に觀覽せしむる由（元山來電）

敍位發表

十九日立花拓殖局次長以下前法務局長國分三亥氏以下に對し左の通り辭令ありたり（東京來電）

陞敍高等官一等 立花俊吉
敍正三位 國分三亥
敍從三位 鳥山虎輔
鈴木伍三郎
敍正四位 佐々木源之進
敍正五位 田中芳春

鮮人男教員視察團

朝鮮道普通學校訓導二十三名は京城醫學專門學校大内教授總督府視學に引率され途中各所視察の上十七日夜入京神田旭館本店に投宿十八日は宮城靖國神社等を參拜の後帝國大學其の他を視察し歸宿したるが一行は更に日光京都名古屋廣島等を視察し十一月一日釜山着の豫定なりと（東京來電）

復辟運動再燃

張作霖と張勳

段祺瑞一派が沒落し張作霖の勢力が更に加はると共に俄然として復辟説が傳はつたが今度李純の死が傳へらるゝと同時に更に有力に復辟説が持上り北京に於ては氣の早い米國新聞が盛に反復辟の宣傳をやつて居ると云ふが傳へらるゝ所に據ると張作霖は斷乎として復辟を行ふと云ふ右に付き有力なる支那消息通は語る「復辟運動に關しては未だ情報に接しないが例の張勳が張作霖に對し復辟を慫慂して居ると云ふ事の情報はあつた由來支那の復辟派は非常な勢力を有し張作霖は勿論徐大總統も復辟派の一人である殊に最近の政變に張一派勢力が伸びた際であるから其運動は起りさうにもあるが支那人は中々利口だから輿論は矢張り未だ復辟には傾いて居ないやうだから俄に復辟が行はれやうとは思はれぬ要するに支那の復辟騷ぎは昨今の一時的で興奮すると持上がる狀態にある然し左樣かと云つて輕々に看過する譯にも行かずマア當分は形勢を觀望して然るべしだ」

大都市と公民權

地方議會

俸給生活

苟も公民

選擧權低下

安東取引創立

過激派の貨幣經濟（上）

（英紙所載）

京城金融狀況

銀行預金激増

官有財産

内鮮人無差別主義

教育令改正要旨

府議選擧期

國境方面電信

朝鮮蠶絲大會

朝鮮釀造品

品評會進捗

取役員決定

關野博士講演

盛會を極む

全鮮綿系布商大會

吉長四洮換算率

滿鐵現業員職名

北里博士入京

行商用空器運賃

私鐵協會總會式

杉山總長入城

酒造醤油兩組合協賛

風塵録

株式界

商況

仁川期米特電

刺繍講習

京城刺繍講習所

東京期米特電

大阪期米特電



遂に倫敦市に流血の慘事勃發

罷業派政廳附近を包圍し警官隊一齊射擊應戰す

死傷者街路に横はり轉た光景慘たり矣

全國石炭坑夫罷業宣言に引續き倫敦市ホワイトホール及政府諸官廳並首相官邸の在るダウニング街に暴動勃發し暴徒と警官隊との間に戰鬪起り午後四時二十分に至る迄に負傷者四十名……に達せり戰鬪は長時間繼續され紛動漸々として……起れり發する小銃彈の一齊射擊……警官隊の爲叩き殺され……道路頭の破壞甚しく……たる者多數あり……グウニング街に運ばれ同街は宛然病院と化し負傷者充滿し其の溢れて步道に横はる者多數あり警察隊は目下列を爲して暴動地域を取圍み居れり而して右暴徒は手に赤旗を振り革命の歌を高唱し先頭はダウニング街よりホワイトホール及トラファルガー廣場に及べり（倫敦來電）

討伐隊着々奏功す

避難民續々歸來し我軍門に勞を犒ふ

……牧大佐の指揮する討伐隊は渾春より四道溝に亘る間の不逞鮮人の巣窟を根底より覆滅し重要書類武器彈藥多數を押收し十八日歸還せり附近各部落は全部に亘り不逞の色彩濃厚なり同地支那兵營は灰燼に歸せり……不逞團は……北方高地に集合將來を評議し一部は土門子に大部は馬賊に投じ又一部は茂山對岸方面の不逞團に合し有力なる首魁……は多くは姿を晦まし居たり善良なる鮮人は不逞團の脅威跡を絶えざるに深き怨恨を彼等に懷き居れり要するに重要地點に日本軍を駐屯せしむるに非されば效果なく萬一引揚ぐれば復た彼等は擡頭して報復手段を執るは明かなり昨今支那避難民續々歸來し日本軍の爲生命財產は安心なりと謂ひ非常に感謝し雁鴨等を持ち來りて軍を犒ひ門前市をなすの有樣なり（會寧來電）

機關銃と毒瓦斯

老黑山に二千の不逞團あり 三十の露人之を指揮す

……馬賊に拉致され十九日歸來したる支那人の談に依れば馬賊は機關銃二挺の外毒瓦斯を有し露國人は約三十名あり現在老黑山には約二千名の集團あり最近馬賊は三分口を襲擊せる形跡あり尚牧大佐の指揮する討伐隊は徹底的掃蕩を實施し十九日歸來し有力なる書類及武器多數を押收せり（會寧來電）

梅花團と殺民團

長驅國境に迫らんとす

五道溝附近にある不逞鮮人の結社梅花團……五十餘名及東溝方面に根據を有する李明彈の率ゆる殺民團二百餘名は相呼應して近く……

礒林支隊の活躍

三隊各多數の穫物あり 首魁等は早くも逃竄す

十月二十日 軍司令部發表

金佐鎭

部下三百を率いて逃亡

邦人引揚ぐ

賊團三道溝に在り

我軍積極的討伐開始

我軍は各地方共支那軍隊と協調し十七日より積極的に討伐行動を開始せり

愈々共同出兵決す

張氏の反對は輿論喚起の爲め

趙孟善の部下を逮捕

多數の賊團に包圍され

我巡邏兵浦市街に戰死す

不逞分子の蠢動

少女流彈に仆る

浦鹽邦人殺害は復讐的の匪賊の所爲か

借稱政府の内情を探查し歸った青年

權泰用氏の苦心談

萬死を覺悟し

呂運亨

鐵血團

夢中に

戰端を

防疫費

二百萬餘圓 驚く可き

府議選擧近づく

京城の有權者は四千七百餘名 有資格者名簿縱覽は今日から

有資格

本調査

煩瑣になった小包郵便の手續

改善に非ず寧ろ改惡 都會地の市民は大不平

第二回 鮮人團

（三）怪物パツパの正體

毎月三百本 線香賣上高

男？女？

交涉でも

嚙み殺し

辣腕

私嫌らい

花園町の公設市場開場

今廿一日から

京城秋季消防演習

人名簿

一旦稅關

射擊を

政治的

二重三重

事務繁雜

嘉會洞の小火

旭映會演奏會

公會堂に於て

演奏曲目

死する覺悟で男の死骸

兩校運動會舉行

日曜學校團出發

仁川玉蓮里の絶壁から無分別な抱合心中

金の無いのが身の因果

男は銀行員 相手は新町松葉樓の娼妓

花柳界の今昔譚（七）

花房のお政サンとの關係

殿サンの足附きの白紗

恭しく桐箱に納められ

料亭千歲の女將語る

大禮服を着ると

世間て往々誤

李太王殿下の

小栗判官照手姫

（百四）

旭亭櫻山口演

山賊の巧妙な斥候

繁昌になりますると、又も丹波の客人二人は御馳走になつた、其日の正午頃彼處此處を受けて居ります者共皆ドカ／＼と三人の頭の前へ出まして、○「さて親分の天輪坊殿、根津の今夜叉殿は討たれ単太郎殿は生捕となりお負に吾々一同は斯る創を受けて難儀で仕まりませんから、今夜稲井村の七郎右衛門方へ夜討を掛け彼が所持の金銀財寳を奪ひ取つて、七郎右衛門始め、吾々に敵對したもの一統を鏖殺しにしてやりたいと存じます、どうぞ大王今晩御出張を願ひ度う存じます、第三の頭領妙義の太郎其れへ出て 太「併し七郎右衛門方には腕の利いた奴が三四人居ると云ふではないか」○「其」

とそこで第一陣、第二陣、第三陣と三百人の山賊を陣立をして、一陣が妙義の太郎、第二陣の大將が阿歩機頭兵衛、第三陣の總備へと致して九頭龍九郎、三百人の手下を百人づつ從へて、山賊の大八は妙義太郎の手に入り、山際兵助は阿武隈頭兵衛の手に附いて、總備へは此處の次郎が力を添へる事になり、そこで九頭龍女共を呼び出して 九「今急に仕事に添り、夜中にならなければ戻らん、事に依ると夜の明け方になるかも知れん、此處へ二十人の小賊を殘して置るからお前達は神妙にして待受けて居れ……コレ小賊共此女が逃げ出さうとしたら、一同擲て吩附けた通り、飛道具を以て打殺して終へ「其」小賊「畏まりました」と弓矢な



れは何ります、其人達に天輪殿今夜叉殿が討たれましたので」太「シテ見れば吾々三人だけで押出して行つてどういふものかな」妙義の太郎首を傾けて居る、之れを聞いて山猫山賊が其れへ出て 兵「何か承はれば黨中の者が討たれたさうで憎い奴は其の七郎右衛門といふ者吾々兩名丹波から斯うやつて參りましたものでござれば御手傳ひ致しませう、丹波の鬼夜叉の身内山猫山賊の腕前を御覧に入れるでござらう」此茂の次郎も其れへ出て 次「拙者も各方に先生と敬はれ美食を頂き金などを戴いてゐながら、敵術を教へるだけでは、此職の報いやうもないお手傳ひ致さう、手前が參れば日頃の事を云ふやうだが、五人十人位の利いた奴が居つたからとて、片ツ端から寸斷々々にして御覧に入れる、お通れ下さい」第一の頭領九頭龍太郎之れを聞いて大きに喜んだ 九「丹波の客人が行つて與れ、此茂の次郎先生が行つて下されば結構だ、其れでは今夜押出さう」

と列べて女共を脅かして居ります「萩江を初め其れへ兩手を仕へ「大頭領行つていらつしゃいませ、御無事で御歸りをお待ち致します」九「好し／＼、夫を聞いて安心致した」ソレ押出せ」此の山道を其れだけの人がドン／＼歩き始めた、さて鶺鴒ケ嶽の麓まで來る、稲井村へは夜にならなければ入り込めない、其れ故麓へ來て暫らく滞陣する、時に第一陣に居りました山猫兵助「私は道を知られて居りませぬから斥候をして參りませう」妙「ア、其れは宜い處へ氣が附いた成程他の者は事に依ると、チョイ／＼村へも來て居るから、顔を知られて居るが、お前さんは丹波から來たのだ一つ斥候をして來て與れ」唯一人兵助斥候の爲に稲井村へ入り、裏手から七郎右衛門の家へ入り込み、突然に主人の居間へ斬り込み出したから、七郎右衛門は大に驚き 七「是は兵助殿お歸りでござりますか」兵「唯今又内をしました、尤も山賊三百人の……」七「三百人來ますと」兵「三百人來る、就ては阿野一家四十三騎の腕の利いた者を集めて置ひたい」

演藝案内

壽座

本町壹丁目 電話五九七番 壽樂館
十月十九日より特別大興行
向島派の大作品
散り行く花 全五巻
米國パテー支社大傑作 お馴染のパールホワイト
連續冒險大活劇
電光石火 全卅一巻
第一編黒鑵の木片第二編……

笠森お仙 全七巻
日活京都派新派 稲荷茶屋美人

大正館
櫻井町 電話八七三番
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
十月十五日より特選大寫眞提供
喜劇「佛國人東洋奇術」長尺
ニコ／＼「惡犬の復讐」長尺
尾上松之助大車輪劇
「白旗八郎」全四巻

米國ラスキー映畫
ベヤーロット、ウォーカ嬢主演
「孤松の棧道」全五巻

東京及大阪朝日新聞連載
渡邊霞亭氏大傑作
新派悲劇
「黒水晶」全六巻

毎夜開館 每月一・十五日・日曜日・祭日

黄金館
黄金町 電話二二六六七
國活會社特約
岩見重太郎 全五巻
名金 全四巻
米國名畫
日本劇「お雪さん」全五巻

朝鮮郵船

元山出帆（取扱店吉田運輸會社）

釜山出帆（取扱店大池回漕店）

木浦出帆

仁川出帆（取扱店堀野組回漕部）

朝鮮郵船株式會社
釜山支店 電話一八四番
元山出張所
京城取扱店 日本郵船會社 八木商店 松原運送店、大阪商船會社

絶海の孤島 全五巻
ジョンビクロ、ファンニー、ワード…… ウキリアム・ローレンス氏

家庭の一大福音

淺井式飯蒸器
製造發賣元 朝鮮平山滿江通
住友金物店
製造工場 電話八一四番
販賣部 電話三六〇番

サック
新館製劑部
東京北品川町百五十四番地
振替貯金口座東京一七九六番

元賣 各種製造販賣 スリッパ
櫻井町二丁目百四十番地
宮治商店

肺病 無代進呈
人助け

ピストル電氣マッチ プログ型
淺井商店

コレラ豫防に
蠅滅

若宮染工場

患者に告ぐ
東京吃音藥院

ともり

本場大島紬
本場織元
出張所
電話一〇九一番
京城本町一ノ五一
勝久京城支店

日本自動車學校
東京蒲田驛前

株式會社 十八銀行支店
本店長崎市
京城黄金町
資本金六百五拾萬圓

カンキチ
本町二ノ三九番地
電話三〇二六番

柳織トランク
皮より強い理想的の
▲其他旅行用具一切
▲魔法瓶及中瓶取替
京城本町電話貳五四番
高木旅行用具店

筑前琵琶
橘宗家指定
製造元
京城本町三丁目

江原代書所
京城府浦造洞
電話三一七二番

電氣

生活改造ノ威力

賜 聖上陛下 皇后陛下 御嘉納 御買上之光榮

無くてはならぬものは蓄電池の使用廢物利用で家族も來客も無上の樂しみと便利機械で電氣が製して入れられる理想通り電氣燈亦電燈の電氣を移して小さな容器に蓄へ置き自由に特歩きが出來、使つて無くなれば誰でも容易に補充が出來、何回でも繰返して使用が出來る、驚く程經濟と便利なる專賣特許品蓄電池を早く試用して實益を得られよ本社が實益實効を責任を以て斷言保證す世見の電燈會社が横暴とか電燈が暗いとか料金が高いと苦情を申す必要は無い、早く此蓄燈を使用して夫れ等の解結をしてはどうですか

本品の特色

應用品目錄

專賣特許輕便電熱器 各種
炭價暴騰驚くに足らず オンドル用

本社ハ左記ノ場所ニ營業所及分工場ヲ開始致シ候ニ付特約販賣御希望ノ御方ハ至急御來談相成度候

京城本町五丁目四二
大日本電氣工業社營業所
京城岡崎町九十番地ノ二
大日本電氣工業社分工場
電話九五五

セーノー式稻麥扱機

新案特許 七大特色を有せる斯界の霸王

一切御斷

機械器具製造發賣元
盛農社
大阪市北區上福島中一丁目

一日の損失莫大

惡筆 矯正 速成 進呈

現代流行の三輪車
品質本位運搬用三輪車
目方六拾貫迄確實輕便運搬可能
並ニ部分品卸商
申越次第型錄進呈（郵券二錢要ス）
▲朝鮮特約店募集ス
三輪車製造元
大阪市南區難波稲荷町二丁目
木寺三輪車部
電話西二一五六番

滋養痰咳特効藥
K.O.S COUGH BONBONS
和光堂京城支店
電話一九九番

歐米各國自轉車及附屬品販賣 自動車營業
仁川府新町甕舘前
一町田自轉車商會
主 一町田仙次郎